資料５

（議題２関連）

第４回三重県経営戦略会議（教育課題）への意見

三重県経営戦略会議（第４回）委員提出資料
（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員　白波瀬佐和子

[いじめ問題について]

・残念ながら、いじめをゼロにすることは不可能に近い。何を「いじめ」とするかについても一筋縄ではいかない。子どもだけでなく、大人の間でも「いじめ」がある。その意味で、「いじめ」への取り組みが、一時的な盛り上がりの中でのみ議論されることがないよう、中長期的な視点にたって継続的な取り組みが求められる。

・大津の事例で明らかになったことは、学校組織、教育委員会等、組織的に閉じられた空間の中で物事を処理されることの問題である。そこで、「いじめ」を受けていることをいかなる時も正当に申し立てできる第三者機関を設け、いじめ対応の検証も含めた、独立機関の設置を検討してもよいかもしれない。

・「いじめをなくす」ことは大きな目標であるが、たとえいじめを受けたとしてもその子自身が強く生き延びていくよう支援することがさらに重要になる。ヘルプラインの設置や地域・コミュニティーでの見守り、こころのケアスタッフを常駐させるなど、対応が求められている。

[学力向上について]

・義務教育レベルの学力については、徹底した基礎学力の習得が第一である。基礎があってこそ応用が生まれる。そのためには、得手不得手が異なる生徒たちに粘り強く学習指導することが大切になる。学力向上をめざすのであれば、まず、教員が子どもの学力向上に向けた取り組みに十分な時間とエネルギーを注ぐことができるような体制が保障されなければならない。

・家庭学習の習慣をつけさせるには、家庭からの協力が不可欠になる。ただ、いろんな家庭の事情があるので、そこでは学校、地域のサポートが重層的に提供されるような取組が必要であろう。